

Vol. 95

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 桑波田 和子  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (一財)千葉県環境財団事務局  
 環境活動支援課  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969



# だより

— つながれ ひろがれ —

## 「平成26年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部環境政策課長 山崎 経貴

平成26年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践する中、県の環境学習アドバイザーとしての活動や環境学習指導者養成関連講座の実施など、本県の環境行政の推進に御協力・御尽力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

また、持続可能な社会の実現のため、例年開催されているエコメッセにつきましては、平成22年度から実行委員長として、桑波田代表には御尽力をいただき、市民・企業・行政など様々な主体の協働のもと、昨年も1万人を超える来場者を迎えることができましたことを改めて感謝申し上げます。

昨年は、IPCCから、地球温暖化による世界の平均気温や海面の上昇などの将来予測をまとめた報告書が公表されましたが、この報告書により、人間活動が温暖化の主な要因となっている可能性がより高いものとなりました。

また、昨年11月にポーランドで開催されたC

OP19においては、2020年以降の新たな国際枠組について、各国が温室効果ガス削減の自主的な目標を導入することが合意され、先進国と途上国が共通のルールで温暖化対策に取り組む方向性が出されたところです。



地球温暖化問題の解決に当たっては、私たち一人ひとりが、限りある地球の資源を大切に、じょうずに使うことを常に考え、ライフスタイルを見直す必要があるとともに、様々な主体が特徴を活かし、相互に連携・協働して、この問題を解決する必要があります。

このような取組の推進に当たり、多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境活動の推進と充実を目指す環境パートナーシップちばの皆様との取り組みが何より重要であり、ますますの御理解・御協力をお願いする次第です。

終わりに、環境パートナーシップちばの更なる御発展と、会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

環境パートナーシップちば 代表 桑波田和子

会員の皆さまには、希望に満ちた新年をお迎えになられたことと思います。除夜の鐘を聞きながら1年を振り返り、元日には新しい1年のことを思う。このならわしを大切にしたいと思います。

当会は、平成25年度千葉県環境学習指導者養成講座を受託し、1月で終了したところです。講座内容が受講生にとり、より良き内容にしたいと、講師の方をはじめ、スタッフも全力で講座に臨みました。導入コースでは県内で活動している団体をお願いしてインターンシップを行い、いろいろな体験の機会を設けました。当会の団体会員の方にもお世話さまになり、ありがとうございました。

講座を通して、心豊かに、人も生き物も住みや

すい環境づくりに寄与できる人づくりの支援をしたいと思います。地球規模では、気候変動による異常気象現象や、日本では巨大地震への対応、エネルギー問題、生物多様性の保全など大きな課題があります。持続可能な社会を作るためにも、私たち一人一人が重要な役割を担っています。

また、子どもたちの笑顔は私たちを元気にしてくれます。この笑顔がいつまでも見られる社会づくりが、“今”の私たちの責任です。

当会の目的に、環境活動を継続し、いつまでも続く未来ある社会の実現に向けたための様々な活動を支援するため、市民・企業・行政等との協働(パートナーシップ)の取り組みを推進するとありま

す。今年は、設立18年となります。

午(馬)年、馬のように元気に躍進する1年に!

と願います。皆さまのご協力をなお一層よろしく

お願いいたします。

## 千葉県環境学習指導者養成講座発展コース報告

講座コーディネーター 桑波田 和子

発展コースは、持続可能な社会づくりに向けて環境学習を行うために、公民館等における一般市民対象の環境講座や学校における児童・生徒対象の環境学習の指導者として、実践できる指導技術を身につけることを目的とし、5日間開講しました。

受講生は、18名で、県内の環境系の学生や、学校、公民館、環境学習施設などで既に講師役など体験している方々もあり、発展コースとしては、やりがいのある講座となりました。

講座は「学べる!使える!体験できる!環境学習プログラムづくり」です。まず課題を見据えて、各自で課題解決のテーマを出し合いプレゼンした結果、5つのグループができました。プログラムづくりは、各自の思いを合意形成して意識を共有化することも、大きな学びです。グループメンバー同士や、ファシリテーターの陰ながらのサポートが活かされ、プログラム企画書ができました。

5つのプログラムは、温暖化防止の分野では、「賢く エコして ○○ゲット」「身近にできるこ

とから始めよう」。資源循環の分野では、「ちょっと待って!!もったいない!!」。生物多様性では、「いきものみーっけ」。水の分野では、「民話で知ろう いのちの水」ができました。企画書は中間発表を行い、ファシリテーター、受講生同士から厳しい評価を受け企画書を再度修正しました。講座最終日に、仕上げたプログラムの発表です。

講評は、アドバイザーとして聞いて下さった小中学校や大学の先生などから、具体的で的確なアドバイスを丁寧にいただき、とても良い学びができました。現在最終仕上げに受講生は取り組んでいます。また、プログラムを活かす場としての学校、公民館、行政などについて、講師から現場の様子など学びました。船橋市環境保全課からもご参加いただき、市の取り組みなどお聞きでき、相手を知ることの重要性を学びました。

当会は、発展コースでの成果品の「5つのプログラム」を、今後大いに活かす場の営業活動をしていきたいと思えます。もちろん受講生各自のPRも重要ですが・・・。

## 環境学習指導者養成講座(発展コース)を受講して

受講生 小柴昭太郎

私は標記講座の導入コースと技能向上コースをすでに受講済みで、今回発展コースを受講させていただきました。その報告(感想など)を書かせていただきます。

今回の発展コースでの、プログラムづくりでは、私は、地球温暖化をテーマとして3人のグループに入れてもらいました。お互い出会ったばかりで、具体的な組立に進むにつれて、それぞれのシナリオや異なる意見、興味を湧かせるアイデアをどう共有するかの難しさを感じる一方で、他の人の思いに寄り添うこと等、学ぶところがたくさんありました。

発表会では、講評の先生、スタッフの皆さんから、プログラムづくりの心構えや工夫などのアドバイスをいただきました。特に、もったいないグループでは、指導者自身が魔女役になり、ゴミ袋をかついで、講座開始と同時に、いきなり教室へ入ってきて、転んだはずみでゴミが散乱するという奇抜なシナリオで、子供たちの視覚にうったえる工夫を紹介してくださいました。

また、地球温暖化グループでは、たとえ小学生であっても、温室効果のメカニズムをきちんと、

時間をかけて理解させることが大切であること、また、こどもたちに依頼する時は、各家庭の事情があることなので、先生とよく相談して進めること、個人情報に立ち入っていないか、変な方向にいかないようにファシリテートすること、また、人前で発表することは、すごく大変なことであり、日々学んでゆくことが大切で、発表者が変わったとき、お互い共有していることが違ったりすることがないように注意しなければならないこと、そして、伝えたい思いが強いので、全部伝えるのではなく、その中の一点だけを絞ることを心がけるようにすること等貴重なご意見をいただきました。

今回のこの発表会は、老若あり、個性あり、ベテランあり、笑いあいの楽しいプログラムづくりを体験しました。これからは、環境学習指導者として行動する場を開拓することが求められていると感じました。

環パちばのスタッフの皆さんは、私が入門コースをはじめ受講したときから、まさにファシリテートして下さりお手本になりました。ありがとうございました。

## 環境学習指導者養成講座を受けて

千葉工業大学 社会圏環境研究室 鶴 茉央子

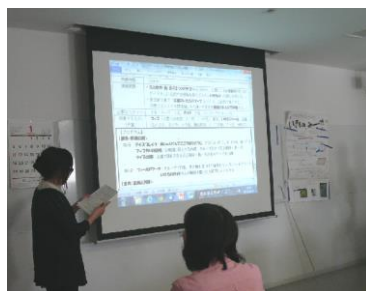
私は今回、初めて環境学習指導者養成講座に参加しました。大学で環境について学んでいること、そして先生の勧めもあり講座を受講することに決めました。私にとって大学以外での講座は初めてのことであり、発展コースからの参加だったので不安でいっぱいでした。しかし5日間の講座を受け終えた今は、本当にこの講座を受けてよかったと心から思っています。そして何よりたくさんの人と出会えて、5日間の講座を楽しく過ごすことができました。この講座を受けるよう勧めくださった先生、環境パートナーシップちばの方々、そして一緒に講座を受けた受講者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

講座を受けていてとても驚いたことがあります。それは環境について熱い思いをもった方がたくさんいるということです。受講者のほとんどの方が私よりも年上の方ばかりということもあり、環境について熱く語る姿には圧倒されてしまいましたが、ひとりひとりの方が環境について熱い思いをもち、環境のためになにかを實行しようと頑張っているのだと感じました。そんな積極的な姿は大学生として見習わなくていけないと思いました。

今回の講座ではグループでの環境学習のプログラム作りがメインとなりました。作り終えた今、やはりこのプログラムを実現させたいと思いまし

た。しかし実現には講座を開く場所（学校等）へのアプローチなど実現までには時間がかかるということも講座のなかで知ったことです。

私は卒業論文のテーマとして環境学習を取り入れることになりました。それはこの講座を受講したのが大きなきっかけとなりました。環境を考えるうえで人の存在はとても大きなものです。なので人にもっと環境に触れてもらうには環境学習はぴったりなのではないかと思いました。この講座を受けたことは私にとってとても大きなものとなりました。学んだこともたくさんあります。たくさんの方と出会えました。ここで学んだことと環境パートナーシップちばの方々との出会いを大切にして、今後の研究に生かせることができたらいいなと思っています。すばらしい5日間をありがとうございました。



## エコプロダクツ2013に参加して

日本最大級の環境展示会エコプロダクツ2013が平成13年12月13日（木）～14日（土）の3日間東京ビッグサイトで開催されました。今年のテーマは「今つくる地球の未来」でした。入場者数は3日間で169,076人で昨年(178,501人)より入場数は減少しています。出展者数は702社・団体（前年比98.7%）、出展小間数は1,703小間（前年比98.2%）と報告されています。

エコプロダクツは余りにも広く、出展者数も多く、本来のエコメッセの渉外活動もあり、ほんの少ししか見ることはできていませんが、印象深かったことを書いてみました。

故郷の富山市が出展している「環境未来都市」構想ゾーンを覗いてみました。都市の公共交通として見直されている市電が走っていることは知っていましたが、このような計画をもっていることをこのたび初めて知り、興味深くお話を聞きました。

エコメッセ千葉でも実現できたらなーと思ったのはオール東京62市区町村共同事業の出展でした。各市区町村が特徴を出しており、子どもたちが多く訪れていました。千葉県オール市区町村が出展していただきたいなーと思いました。

今回は環パの原稿を書くということでいつもより少し遊ばせてもらいました。エコメッセのお隣のブースでの再発見です。セミはどこでタマゴを産み育てるのでしょうか。

セミの抜け殻もいろいろ見せていただきました。知っているようで全然知らないことをセミをとおして再発見しました。

さて、本業は、3日間、エコメッセの運営委員のみなさんと交代で、エコメッセ2014に向けPRし、出展への依頼活動に精をだしました。

ぜひぜひ、環境パートナーシップの会報読者のみなさん、エコメッセ2014へお越しください。そして、ご出展をお願いします。（山田）

## 環境協働創造市2年目の活動

エコメッセちば実行委員 横山 清美

2012年にエコメッセちば実行委員会で誕生した環境協働創造市2年目の活動について、報告させていただきます。

2012年は立ち上げの仕組みづくりに力を入れて、環境協働創造市という言葉の普及にも努力してきました。2013年は4月、7月、8月、11月、2014年1月、3月の交流会を団体同士が交流できる機会を提供することを目的に開催する活動を中心に行っています。

4月は実行委員も共有するための交流会でしたが、7月は千葉工大に会場をお借りして個人や団体の意見をMindmapを使って可視化するという試みを通して交流しました。これによって学生の参加度が向上しました。8月の出展者説明会での全員参加型の1分間紹介で、交流の見える化が進んで、9月の環境活動見本市会場では、協働やマッチング、交流という意味を出展団体にもご理解いただけたと感じています。

11月の交流会では、マッチング提案団体のプレゼン交流会として、お互いの情報の共有が進みました。1月27日は、「分野交流」という試みを行いました。



参加団体数は少なかったものの「エネルギー」というキーワードでMindmap meetingが進行され、早速マッチング出来そうな話題に展開しています。3月14日(予定)の交流会もどうぞご期待ください。ご興味ある方は、是非エコメッセ事務局までお問い合わせお待ちしております。

URL : <http://ecomesse.blogdehp.ne.jp>  
電話 : 080-5374-0019

## 印旛沼流域圏交流会へお誘い

～あなたの印旛沼への思いをお持ちよりください！～

私たちと印旛沼は、どのようなつながりがあるのでしょうか？

水道水として利用している市民は、千葉市、浦安市、船橋市、印旛沼流域市町など。農業用水として、工場用水として、流域の鳥など生物のため、景観豊かな心が癒される憩いの場所として・・・などなど、多くの恵みを頂いています。

また、印旛沼の歴史は古く、利根川東遷以前から重要な場所として人々と関わってきた暮らし、文化、歴史を今も垣間見ることができます。

その印旛沼は、現在千葉県民の重要な水がめとして、県民の4人に1人は印旛沼の水を飲んでいられると言われていたのですが、ご存知のように水質は全国ワースト1を競っている状況です。

この課題を解決するために、印旛沼流域水循環健全化会議では、流域での話し合いの場「印旛沼わいわい会議」、「印旛沼再生行動大会」等を行政からの働き掛けで活動してきています。一方市民団体は、流域での里山保全、河川の浄化活動、ゴミ拾い、子どもたちとの環境学習など活動しており、この活動がひいては印旛沼再生へとつながることも意識するようになりました。

この思いを形に！と願い、市民主導での「(仮称)印旛沼流域圏交流会」を設立し、キックオフミーティングを開催することになりました。交流会呼びかけ人は、小倉久子 横山清美、桑波田和子(環境パートナーシップちば)、近藤昭彦(千葉大学)です。呼びかけ人のお仲間も募集しています。

印旛沼流域圏の皆さまと緩やかに連携・協働し、印旛沼が良くなり、暮らし、地域が元気になる話し合いの場として活かしていきたいと思えます。

皆さまの思い！とご参加をお待ちしています！  
(桑波田)

### 「印旛沼流域圏交流会キックオフミーティング」

日時：3月9日(日) 14:00～17:00

会場：千葉大学けやき会館 3階レセプションホール

参加費：300円(資料代)

対象：印旛沼を考える団体、個人

申し込み・お問合わせ：090-8116-4633

E-mail : [inbameeting@gmail.com](mailto:inbameeting@gmail.com)

(準備の都合上、できるだけ事前にお申込みいただけるとうれしいです。)

## ナガエツルノゲイトウ Q&A (その5)

Q：今までナガエツルノゲイトウの話をいろいろと聞いてきて、なんだかもう、あきらめムードになってしまった。駆除するためには除草剤を使うしかないのかなあ。

A：たしかに除草剤を使いたくなるね。でも、それは最後の、本当に最後の手段で、使いたくない。ナガエツルノゲイトウを駆除できても、他の植物や生きもの（人間も含めて）にどんな影響が出るかわからないから。

Q：じゃあ、やっぱりどうしようもない？

A：今までは人力や重機を使って駆除してきたが、完全駆除はどうも無理なようだ。そこで、各地で実験的に行われているのが遮光法なのだ。

Q：遮光法って、光をさえぎればいいのか？

A：そう、それだけ。ナガエの群落の上に遮光シートをかぶせて、光合成をできなくするという方法だ。遮光シートをかぶせて光を遮断すれば、1～2カ月でナガエは枯れるようなんだ。完全に枯れないと、生き残った茎や根からまた増殖が始まってしまうから、駆除方法の条件を確立する研究がいろいろ行われている。琵琶湖の湖岸（滋賀県大津市、彦根市）や淀川、佐賀市などでは数年前から試験的に遮光法の駆除を始めていて、よい

結果が出ているようだ。

Q：千葉県でもやってみればいいのに。

A：当然そう考えるよね。印旛沼に引き続きナガエが侵入している手賀沼では、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」が中央博物館の指導を受けながら、柏土木事務所と協働で、実験的に遮光法駆除を行う準備をしているところだよ。期待しよう。

(小倉)



水面を蔽う外来水草のナガエツルノゲイトウ (佐賀市嘉瀬町 佐賀新聞 2013年9月27日)

## ESDの視点を取り入れた授業を実施

ELCoの会 代表 市野 敬介

ELCoの会は、前号大西さんも書いて下さったように『ESD環境教育モデルプログラム』実証事業を受託しています。2013年11月21日(木)と22日(金)の2日間、千葉市立打瀬中学校の1年生29名にESDの視点を取り入れた実証授業を行いました。打瀬中学校のある幕張ベイトウンの一角には、住民の手で自然な状態を維持・管理している「エコパーク」が存在します。エコパークを、もっと魅力ある空間にするためにできることを考える授業を各日2時間ずつ、計4時間にわたって実施しました。解説役は「幕張ベイトウンにエコパークをつくる会」で活動されている布施さんをお願いしました。

1日目、最初に「公園にはどんなものがあるか?」という多答クイズを出題。次にESDの視点のひとつである世代間の相互理解について考えてもらうため、20代と60代に実施した社会調査から出た結果の違いを予想する問題を出しました。グループ活動で場が和んだところで布施さんがエコパークの成り立ちを解説。初日の課題を出しました。グループでエコパークを観察し、魅力ある点(いいね!)と改善すべき点(うむむ…)をタ

ブレットPCを用いて写真に収める課題です。写真を撮影するときや、選定するときには自然と会話が生まれ、議論が始まります。各グループが選んだ写



真は、その日の夜にSNSにアップして、多くの人に見てもらえるようにしました。

2日目は、選んだ写真をもとに、普通の公園と比較して、あえて整備を行き届かせないエコパークの特徴と魅力を布施さんが解説。その後、見つけた「いいね!」と「うむむ…」をグループで整理し、エコパークがより住民に活用されるための改善点を議論して、発表してもらいました。整備体制や設備面だけでなく、生態カードを作って住民に配るなど、建設的なアイデアも多く飛び出し、授業は終了しました。ESDで育みたい「多面的に考える」「協力する」「伝達する」力を、中学生が発揮した2日間でした。

## ESD フォーラム in ちば

2014年は、ESD教育の10年の節目にあたり、全国で様々な行事が開催されています。環境パートナーシップちばでは、今後ESDの取り組みを千葉で推進していくため、フォーラムを下記のように開催します。

日時 2014年3月23日(日) 9:30~12:30  
会場 きぼーる 多目的室(15階) 千葉市科学館、  
千葉市中央区中央4-5-1 (交通アクセス  
<http://www.qiball.info/access/>)

主催 環境パートナーシップちば  
対象 ESDに関心のある個人や団体(定員70名)

主旨 ESDとは、持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代また環境との関係性の中で生きていることを認識し、より良い社会づくりに参画するために力を育む教育です。世界の人々がこのESD=国連持続可能な開発のための教育の10年に取り組んでいます。この10年の節目にあたる2014年、千葉でESDの取り組みを広めるため、みなさまにお集まりいただき意見交換する機会にいたします。

内容 基調講演 「学校教育とESD」  
石田好広氏(足立区立梅島小学校 副校長、  
環境カウンセラー、小中学校環境教育研究会・研究部長、こどもエコクラブ推進委員等)

話題提供 ESDプログラム実証授業を担当して市野敬介氏(ELCoの会代表)

話題提供 ESDと千葉県での環境学習人材養成  
桑波田和子氏(環境パートナーシップちば代表)

意見交換 「千葉でESDを広めるために~ここにもあるESD」

参加費 500円

申し込み・問い合わせ:

MAIL: [welcome@kanpachiba.com](mailto:welcome@kanpachiba.com)  
TEL: 090-8116-4633

参加者の皆様と千葉で推進していくために、既にESDに取り組んでいる人とこれから取り組もうと考えている人の意見交換の中から、個人や団体の活動につなげていただきたいと思います。3月は何かとお忙しい時期と思いますが、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

(横山)

## 第60回 環境パートナーシップエコサロン 「気候変動とその影響」

いま大きな問題となっている「地球温暖化」について、みなさんはどのくらいきちんと理解しておられますか? 「温暖化」という言葉は当然ご存知だと思いますが、その知識は意外とあやふやなものかもしれません。

温暖化を少しでも食い止めるために、私たちは自分たちのできることを真摯に考えなければなりません。その前提として、気候変動についてきちんと理解しておく必要があります。

今回のエコサロンでは気象の専門家から、気象の基礎知識、日本や世界に起こっている気候変動やその影響について、分かりやすく正確に解説していただきます。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書の第1次作業部会報告書(自然科学的根拠)が2013年9月に公表されていますが、このエッセンスについても、かみ砕いて説明していただける予定です。

ご自分で勉強していて、疑問に思ったことなどをお持ちの方は、ぜひ専門家に質問してみてください。

さい。きっとやさしく教えていただけます。

また、勉強しなきゃ、と考えていて、なかなか一歩を踏み出せない方も、ぜひご参加ください。

(小倉)

日時: 2014年2月18日(火) 18:00~20:00

会場: 船橋市男女共同参画センター 研修室  
船橋市宮本2-1-4 スカイビル1階  
JR船橋駅から徒歩約12分  
京成本線大神宮下駅から徒歩約5分

定員: 50名

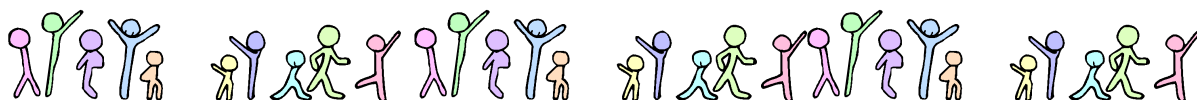
講師: 矢野 良明 氏(気象庁)

申し込み・問合せ先 (小倉)

TEL: 090-8116-4633

e-mail: [welcome@kanpachiba.com](mailto:welcome@kanpachiba.com)

<資料準備の都合上、できるだけお申込みいただけるとうれしいです。>



# 「マイ エコハウス」における省エネ実践効果

エコハウス環境研究所 所長 佐藤 征雄

## 《背景》

昭和20年代の我が家には井戸もあり、夏の暑い日には母が裏庭に「たらい」を出し水を溜めて日向に置くと、昼過ぎには「熱いお湯」になっており子供たちを順番に入れてくれたのを思い出します。その30年程後、仕事で電気がない僻地に雨量や水位などを計測する「無人観測所」を設置する時「電源装置」として太陽電池を利用していました。

そして、新築3年未入居住宅をやっと入手できましたが、冬の朝、外気温は-5℃、2階のベッド脇でなんと0℃です、「暖房」をつけますが、なかなか暖まらず、立ち上がると顔の辺りが暖かい感じがする始末でした。これからの人生を過ごすにはこの寒さ対策に暖房費が相当かさむことと年をとって「リュウマチ」になった者には耐え難くなると思い、売りに出した。家を売りに出しながら別の土地を探し、ハウスメーカーには「自然エネルギーを取込んだエコな家」を条件に見積り設計に入りました。自然エネルギーは、①太陽光線、②太陽放射熱、③風力、④雨水、⑤地下水、⑥地下熱、⑦屋内気流などですが、未利用は③風力のみとなりました。

## 《太陽光》

### ①太陽光発電施設

新築時に太陽電池を瓦材兼用として南面に4.6kwを取付け、10年後、北面に4.6kwを増設し9.2kwとした。これで年間発電量は、南面4800kwh、北面4100kwh（南面の82%）で合計8900kwhとなった。総発電料金は、単価48円/kwhなので約430,000円/年となった。また、CO2排出抑制量は、排出係数を0.406(kg-CO2/kwh)とすると、3600(kg-CO2以下(kg)と略す)となる。これは、一般家庭のCO2排出量の70%分に相当する。



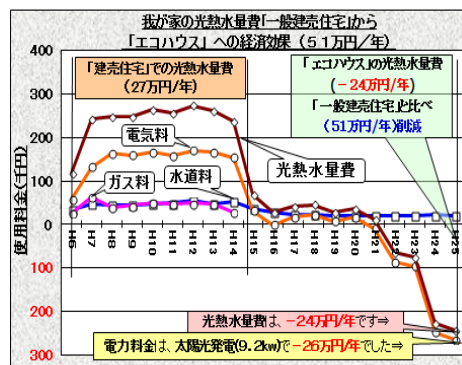
## 《太陽熱》②太陽熱温水器

新築時、南面屋根に「自然循環型」の200ℓタンクを取付け、10年後にこれを「強制循環型」300ℓに更新した。こちらで年間累加湯沸温度は、約16400℃となり、これを電力量に換算すると1900kwhに相当し、電力料金換算は単価30円/kwhとすると約58,000円となる。また、CO2排出抑制量は、排出係数を0.406 kg/kwhとすると770kgとなり、これは、一般家庭のCO2排出量の15%分に相当する。

## 《雨水》④雨水貯留施設

南面及び北面の屋根に降った雨水を貯留する施設で、200ℓタンク、70ℓバケツ及び1000ℓの小池がある、これで年間貯留水量は、

5000ℓ程度になる。水道料金に換算すると、当市の単価は185円/㎡なので約1,000円になる。また、CO2排出抑制量は、排出係数を0.58kg/㎡とすると3kgになる。これは、一般家庭のCO2排出量の0.1%分に相当する。これらの施設は、大雨の時に570ℓ程度が洪水防御とし、この池や雨水樹は地下浸透型として下流の住居や下水処理場への流量を抑える機能も持たせている。



## 《地下水》⑤地下水(井戸)、⑥地下熱

新築前に井戸(地下40m)掘り、これが「無味無臭無色」で真夏冷たく、作業人には喜ばれた。これまでに2度水質検査を行い、いずれも「水道法に基づく水質基準に適合している」と証明された。年間使用水量は、市水道12㎡、井戸240㎡、井戸水使用量を水道使用料金に換算すると、単価165円/㎡で約40,000円となる。また、CO2排出量の削減量は、排出係数を0.58kg/㎡とすると140kg、一般家庭のCO2排出量の3%分に相当する。

## 《通気》⑦屋内気流(天窓)

1階廊下から階段上の屋根裏部屋の床面に明り取りと屋内通気口を蓋付窓で設け、その直上の北面屋根に天窓を取り付け真夏の屋内に溜まる「熱気」をその上昇気流を利用し屋外に排出するもの。この施設からは、明確なデータは得られず経済効果は算出できないが、夏エアコンはほとんど使用しなくても済んでいるので、夏の電力料金の低減になっている。

## 《まとめ》「マイエコハウス」

この家は、自然エネルギーを取り込んでその経済と環境効果は、年間の光熱水量費を27万円から-24万円に51万円も削減でき、CO2排出量も自然エネルギーを取り込まず全て購入すれば8000kgとなりますが、実質のCO2排出量は3000kgと5000kgも抑えられた。

これは、前記各施設によるCO2排出抑制量の合計約5000kgとも一致します。

私は、「太陽電池」「太陽熱温水器」「井戸」を「エコの三種の神器」と言っています。

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 12月運営委員会

日時 12月10日(火) 15:30~18:00  
場所 千葉市活力創造プラザ大会議室

### 【報告】

- ・だより94号印刷・発送
- ・千葉県環境学習指導者養成講座発展コース
- ・エコメッセ運営委員会 12/4
- ・ESDプログラムの実施 11/21.22
- ・浦安市公民館講座

### 【協議】

- ・だより95号
- ・12月エコサロン 12/10
- ・2月エコサロン(温暖化と気候変動)
- ・ナガエツルノゲイトウに関する今後の方針
- ・環境学習プロジェクト・エコメッセプロジェクト・ELCoの会事務局
- ・事務局より

## 1月運営委員会

日時 1月21日(火) 18:00~20:45  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・12月エコサロン 12/10
- ・千葉県環境学習指導者養成講座発展コース終了
- ・エコメッセ運営委員会 1/14
- ・浦安市中央公民館の事業

### 【協議】

- ・だより95号
- ・メルマガの活用
- ・2月エコサロン 2/18
- ・ナガエツルノゲイトウに関する今後の方針
- ・環境学習プロジェクト・エコメッセプロジェクト・ELCoの会事務局
- ・事務局より

## お知らせ

### 関東ESD学びあいフォーラム

なぜ今、ESD環境教育が必要か？ どうすれば実践できるか？  
～学校、企業、地域で明日から実践できるESD～

#### ◆開催概要

○日時：2014年2月8日(土) 13:00~16:30  
○会場：東京ウィメンズプラザホール(全体会)  
& 視聴覚室・GEOC(分科会)

詳細 <http://www.geoc.jp/katsudo/jigyo/cat23/21978>

#### ◆お問合せ

関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)  
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山  
TEL: 03-3406-5180 FAX: 03-3406-5064  
URL: <http://www.geoc.jp/>  
E-mail: kanto-epo@geoc.jp

### 北総里山ミーティング

ーイノシシと北総の自然ー

#### ◆開催概要

○日時：平成25年2月16日 13:00-17:00  
○場所：印西市市民活動支援センター2階会議室  
○プログラム：

①「全国スケールからみた南関東生態系ネットワークの意義：鳥類の分布解析からの提言」  
講師：宮下直(東京大学大学院農学生命科学研究科生物多様性科学研究室)

②「イノシシから里山を守ろうー私達の自然にせまるイノシシの脅威ー」 講師：浅田正彦  
(千葉県生物多様性センター)

○定員：100人・無料

◆お問い合わせ：北総里山クラブ 事務局  
長谷川 mhase@bio.sci.toho-u.ac.jp  
ファックス番号 047-472-1162

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団  
業務部環境活動支援課 気付  
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969  
Eメール: info@kanpachiba.com  
会費納入先：環境パートナーシップちば  
郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		